

ルワンダ国月報(2014年4月)

主な出来事

【内政】

●ルワンダ国家警察は国家の安全を脅かした容疑でミュージシャンのキジト・ミヒゴ他を逮捕した。容疑者は野党RNCにリクルートされ、FDLRに協力していたとされる。

【外政】

●6日、ムセヴェニ・ウガンダ大統領、ケニヤッタ・ケニア大統領、潘・国連事務総長、ブレア元英首相、ズマAU委員長、パワー米国連大使等がジェノサイド追悼記念式典出席のためキガリに到着した。他方、仏は直前に出席をキャンセルした。

【経済】

●2013年の経済成長率は4.6%となり、前年の7.5%から下落し、過去10年間で最も低い数値となった。

※以下はルワンダの英字日刊紙「The New Times」の記事を取り纏めたもの。

【内政】

・ジェノサイド犠牲者追悼記念式典におけるカガメ大統領スピーチ(概要)

『我々と共にあるために来てくれた友人に感謝を表す十分な言葉を私は有していない。また、再建へのルワンダの信じ難い旅において共にあってくれた全ての人に感謝する。我々は、ジェノサイドによって命を失った人々を記憶するため、また、生き残った人々を慰めるためここに集まった。犠牲者に敬意を表するように、国を存続させ、再生させたルワンダ人の精神に敬意を表する。生き残った我々の両親、子ども、兄弟姉妹—ジェノサイドの呼びかけに抵抗し、良心の呵責を口にしたルワンダ人達よ。我々の歴史の負担を担ったのはあなた方である。我々は出来る限り最良の裁きと和解を追求してきた。しかし、これは我々が失ったものを取り戻すことにはならない。過去20年間、あなた方はコミュニティーの前で証言をし、他者の証言を聞いてきた。責任を果たし、許してきた。あなた方の犠牲は国家への贈り物である。悲しみと喪失を乗り越えるためのあなた方の慈悲の心と愛国心に感謝する。歴史を明確にすることは我々が避けることのできない記憶の責務である。「Never Again」という言葉の背後には、それがどのように不快なものであったとしても、語られなくてはならない真実がある。ジェノサイドを計画し実行したのはルワンダ人である。しかし、歴史と根本原因はこの国を超えるものである。だからこそルワンダ人は何が起きたか可能な限り説明することを模索し続け、ほぼ崩壊した国家としての謙虚と共にこれを行うのである。しかし、我々はそれでもなお、人としての尊厳を回復することを決心する。過ぎ去った時は事実を曖昧にし、責任を軽減させ、犠牲者を悪者にすべきではなく、人々は歴史を変えるために操られてはならない。

ルワンダは破綻国家になると思われた。国として存立する希望もなく、民族ごとに分断され、永遠に続く内戦にとらわれ、難民を出し続ける国になってもおかしくなかった。しかし、そうはならなかった。我々は3つの基本的な選択をした。1つ目は共にあること。2つ目は我々自身に責任を持

つこと。3つ目は大きく考えること。我々は他国と同様失敗を犯すこともあるが、そこから学び前進する。前方には過去より困難な課題が待ち受けているが、ルワンダ人は準備が出来ている。20年前、ルワンダには未来がなく、過去のみがあった。ルワンダの選択は再生の能力を示している。今日、ルワンダ国民の半数は20歳以下で、彼らは新しいルワンダである。これらの若い人々が「記憶」の灯火を運んでいるのを見ることは、我々に大きな希望を与えてくれる。我々は皆、何が起きたかを記憶するために、そして互いに強さを与えるためにここに集ったのである。我々がそうしたように、我々は自らに約束した未来もまた記憶していかなければならない。』(8日)

・キガリ市ジェノサイド記念館開館10周年記念式典

8日、政府は、開館10周年を迎えたキガリ市ジェノサイド記念館を記憶の場として、また、ジェノサイドを予防する教育の中心として引き続き支援することを表明した。10周年記念式典はまた、AEGIS TRUSTにより運営される Global Centre for Humanity の開設も兼ねたものであった。ンセンギマナ青年・ICT大臣は、ジェノサイドから20年、記念館の開館から10年、我々は記憶と事実を保護した記念館に敬意を表する、我々は我々自身や今日の世界のためだけにこの努力を行ったのではなく、これは未来の世代のためでもあると述べた。建設中の Global Centre for Humanity には、屋外の円形講堂、展示教室及びジェノサイドを取り扱う資料館が含まれる。(9日)

・キジト・ミヒゴ他2名の逮捕

ルワンダ国家警察は国家の安全を脅かした容疑で3名を逮捕した。3名はルワンダ国民会議(RNC)(注:無登録野党)にリクルートされ、ルワンダ解放民主勢力(FDLR)に協力していたとされ、中にはミュージシャン、キジト・ミヒゴも含まれていた。3名はルワンダに対するテロ攻撃を計画したとして捜査を受けており、一連の手榴弾事件に責任があるとされている。ガテラ警察報道官は、警察は十分な証拠と証言を有していると述べ、3名はRNC上層部及びFDLRと密接に関わったことを認めていると付け加えた。ミヒゴ(33)は、以前はルワンダ人の間の平和、統一、和解を促進するためにその才能を向けていた。オルガン奏者であり作曲家のミヒゴは、1981年に現在の南部県ニャルグル郡に生まれ、9歳で音楽を始めた。1994年、彼自身の父親を含む100万人以上が殺害されたジェノサイドを生き延び、その悲劇が才能ある若者に動機を与え、2000年までに200曲以上を作詞・作曲し、2003年には音楽の勉強のためヨーロッパへ渡った。2010年には Kizito Mihigo for Peace というNPOも設立している。(15日)

【外政】

・カガメ大統領の「欧州連合・アフリカサミット」への出席

カガメ大統領は、2日から開催される「第4回欧州連合・アフリカサミット」へ出席するため、1日、ブリュッセルに到着した。『人材投資、繁栄、平和』のテーマで2日間にわたり行われる今次サミットは、アフリカと欧州連合のリーダーを一同に介し、平和や安全に関する問題から経済や気候変動に至るまで様々な問題が話し合われる。同時に、欧州連合理事会のファン・ロンパイ議長、フランスのオランド大統領、モーリタニアのアブデル・アジズ大統領による中央アフリカ共和国に関する特別な会議も開催される。ルワンダは中央アフリカで活動するアフリカ平和維持活動に800名

を派遣している。(2日)

・ジェノサイド20周年(キガリにおけるジェノサイド犠牲者追悼記念式典)

6日、ムセヴェニ・ウガンダ大統領、ケニヤッタ・ケニア大統領、オンディンバ・ガボン大統領、ケイタ・マリ大統領、サスヌゲソ・コンゴ(共)大統領、モハムド・ソマリア大統領、デサレン・エチオピア首相、潘・国連事務総長、バゾンバザ・ブルンジ第一副大統領、ブレア元英首相、ムカパ元タンザニア大統領、ズマAU委員長、パワー米国連大使などがキガリに到着した。他方、フランスは、直前に出席をキャンセルした。ベルギー代表団長はレインダース副首相兼外相で、ハビヤリマナ大統領が暗殺された数時間後にキガリで殺害されたPKO 隊員10名の家族も随行する。ルワンダ国民は各地の追悼式典に参加することが期待され、正午には黙祷が行われる。記念式典は、キガリ市ジェノサイド記念館においてカガメ大統領夫妻による追悼の火の点火に始まるが、追悼関連行事はルワンダ愛国軍がジェノサイドを終結させた7月4日までの3ヶ月間に亘り行われる。アマホロ・スタジアムでの記念式典では、同大統領の他、潘・国連事務総長とムセヴェニ大統領がスピーチを行う。午後には、国会議事堂からアマホロ・スタジアムまで、カガメ大統領が引率するリメンバー・ウォーキングが予定されている。(7日)

・ジェノサイド犠牲者追悼記念式典における潘基文国連事務総長スピーチ(概要)

『初めてジェノサイド記念館を訪れた際、死の静けさを耳にし、感じた。全ての犠牲者による静けさ、また、犠牲者が国際社会を最も必要とした時に国際社会が保った静けさである。国連職員を含む多くの人々が、非凡な勇敢さを示した。しかし、我々はもっと多くのことができたはずであり、すべきであった。(ルワンダにおける虐殺から)1年後、スレブレニツァの国連が安全を宣言した地区が危険にさらされ、無実の人々が見捨てられ殺されるということが起きた。今日ではシリアが災厄の中にあり、中央アフリカが混沌にある。世界は未だに境界、無関心、道徳心に打ち勝っていないのである。国連は彼らを匿うため基地の門を開いた。状況は脆いままであるが、多く人はルワンダの教訓により国連が門を開いたことにより生き延びている。我々は「Never again」という言葉を何度も何度も口にすべきではない。過去の世代にあなた方ルワンダ人は、人間の精神力という根本的真相を世界に示したのである。』(8日)

・ジェノサイド20周年(オバマ米大統領声明)

ジェノサイド20周年記念の夜、オバマ大統領は声明で、「1994年のツチ族に対するジェノサイドは事故でも不可避なものでもなく、人類が他の人類を破壊するという組織的に引き起こされたものであった。友人が友人に、隣人が隣人に立ち向かうというこの100日間の恐ろしい出来事は、他者を救うため自ら生命の危険を冒した者の勇氣のように、我々を我々の性悪に抵抗させるものである。多くの罪のない人々の命を奪ったジェノサイドの発生から20年に際し、我々はルワンダ国民と共にある。」と述べた。(8日)

・ルワンダ・フランス関係(ムシキワボ外務協力大臣発言)

ムシキワボ大臣は、7日の記念式典終了直後、フランス政府はツチ族に対するジェノサイドにおける自らの責任を否定するために、外交的倦怠を示したと述べた。同大臣は、2009年の対フランス関係正常化の決定の際、両国はジェノサイド問題のために正常化は難しいことを承知してい

たとして、我々は前に進むための提案をしたが、おそらくフランス政府内で意見の相違があり、両国の和解は必要ないと思う者も存在した旨述べるとともに、自己の重大な過ちを隠蔽することなく、対ルワンダ関係の修復を追求するようフランスに対し要求し、また、時として現れる外交的倦怠は、フランスが自らの過ちを認めるか、ルワンダは同国を喜ばせるためだけに歴史を無視する国ではないことを認識するまで続くであろうと述べた。更に同大臣は、特にジェノサイドの否定の背後にいるフランス軍指導者らが、両国関係を修復する方が得策であることを認識することを期待している旨述べるとともに、ツチ族に対するジェノサイドは史実であり、フランスが我々と同調できないならば、それはフランスにとって損失であると述べた。(8日)

・ルワンダ・フランス関係(社説)「残念なフランスの姿勢」

『国際社会がルワンダと共にジェノサイドの犠牲者を追悼しようとする時、フランスは厳しい事実が思い出されたとの理由で式典参加を辞退するという信じられない行動に出た。ジェノサイドでのフランスの役割は記録された史実であり、なかったことにはできない。時の経過は、事実を、ましてや責任の所在を不明瞭にすべきではない。フランスの決定は遺憾であるばかりでなく、世界で最も残酷な殺戮を巡る真実を隠蔽しようとしたミッテラン前政権のルワンダに対する姿勢でもある。ルワンダの悲劇に深く関わった外国のかかる傲慢な態度は、ジェノサイドの生存者やその爪痕に耐えて来たルワンダ人に対する侮辱である。フランスは20年前の責任を認め、前に進むべきである。ルワンダは責任逃れをするつもりはなく、ジェノサイドが残した結果に対し正面から取り組んできた。他方、ルワンダ人、ひいてはアフリカ人は、自らが劣等な人間ないし価値として扱われることは受け入れないし、歴史を書き換えようと試みる諸外国に服従することはない。フランスの哲学者ヴォルテールは、生きるものには敬意を払い、死者には真実のみ伝えるべしと言ったが、悲しいことにオランダ政権はまったく正反対のことを行っている。』(8日)

・ケニア・ルワンダ関係(ケニヤッタ大統領発言)

7日に行われたジェノサイド20周年記念式典において、ケニヤッタ・ケニア大統領は、100万人以上が殺害されたジェノサイドの期間、介入に失敗したことについてルワンダ国民への謝罪を表明した。同大統領は、我々の地域もまた、ジェノサイドを傍観した、我々はそのことについてルワンダ国民に謝らなければならない、ケニア国民はルワンダの兄弟姉妹に手を差し伸べ、共に喪に服し、ジェノサイドが我々の地域で二度と起こらないとする決意を共にする旨等述べた。(9日)

・ノルウェー・ルワンダ関係(ジェノサイド被疑者の本国送還)

8日、ノルウェー南西部の地方裁判所は、1994年のジェノサイドにおける役割によりユージーン・ンクラニャバヒジの本国送還を命じた。南部県の教師であったンクラニャバヒジ(41)は、現在のフイエ郡における7,500人以上のツチ族の殺害に関与したとされ、同裁判所は、決定は「合理的根拠」によるものであり、また、被疑者の権利はルワンダにおいても尊重され、ルワンダの司法システムにおいて公正に取り扱われるとした。同被疑者は2013年5月に逮捕され、ルワンダは同年8月に身柄引渡し請求を行った。ジェノサイド以前、同被疑者はジェノサイド政権の政党MDR-Powerのメンバーであり、また、ブルンジに逃げようとしたツチ族を殺害したインテラハムウェと共に活動したことが訴求されている。ジェノサイド生存者団体である Ibuka は本件を歓迎し、ジェ

ノサイド被疑者を匿う他の西欧諸国に対しノルウェーを模範とするよう要請した。昨年、ノルウェーはバンドラを引き渡し、オスロ裁判所はブギンゴに対し懲役21年の最高刑を下している。(10日)

・フランス・ルワンダ関係(ジェノサイド被疑者の本国送還拒否)

フランス法廷は10日、1994年のツチ族に対するジェノサイドの際に349名を殺害したことで訴追されているジェノサイド被疑者の身柄引き渡し請求を却下した。エクス・アン・プロヴァンスの裁判所は、2月の破毀院の決定を引用し、ピエール・テゲラの本国送還を命じることはできないとした。パリは、ルワンダのジェノサイド法が通過したのは1994年のジェノサイドから少なくとも2年後であると理由付けている。テゲラ(62)はルワンダ北部キビリラのツチ族の虐殺に加わったとして訴追されている。同被疑者は2013年7月にニースで逮捕された。救急車の運転手として働いており、政治亡命の資格は2008年に消失している。(11日)

・ジェノサイド20周年(アディスアベバにおける記念式典)

11日、AUによるジェノサイド20周年記念式典において、テオドス・エチオピア外相は開会の挨拶で、エチオピアは常にルワンダと共にある旨をルワンダ語で述べた。(12日)

・国際刑事警察機構「第6回ジェノサイド、戦争犯罪、人道的犯罪専門家会合」の開催

ルワンダ国家警察と連携し、国際刑事警察機構は「第6回ジェノサイド、戦争犯罪、人道的犯罪専門家会合」を14日から16日にキガリ市で開催する。ジェノサイドを経験した国における同種の会合の開催は初である。今次会合は「刑事免責格差の是正」というテーマの下行われる。(13日)

国際刑事警察機構は1994年のツチ族に対するジェノサイドの加害者の追跡を強化する旨約束し、会合に出席したノーブル事務総長は、同機構及びメンバー国は全ての逃亡者が司法の裁きを受けるまで捜査を続けると述べた。(15日)

・メディア・フォーラムの開催

17日、150名以上のメディア関係者及びジャーナリストが出席し、2日間にわたるメディア・フォーラムがキガリで開始された。参加者は、メディアが暴力を引き起こしたルワンダや他国における事例は二度と起こるべきではないことを確認した。キガリは、1994年のジェノサイドの間、報道発信地及び実行者が暴力を引き起こした場所である。ハブムレミ首相はジャーナリストに対し、破滅的な影響をもたらさうるヘイトスピーチを防止するために何ができるかを考えることがいかに重要かについて想起した。(18日)

・コンゴ(民)・ルワンダ関係(査証費徴収)

ルワンダ政府はコンゴ(民)入国管理局とブカブ国境を通過するルワンダ人旅行者に対する新たな指示を元に戻す可能性につき協議している。21日から実施されている今次指示では、一般で55米ドル、学生に35米ドルの査証費用が課せられており、多くのルワンダ人が国境で立ち往生している。ルワンダ入国管理局のセブテゲ・オフィサーは、コンゴ(民)が突然全てのルワンダ人に対して査証費を課し始めたのは驚きである、これは大湖諸国経済共同体(CEPGL)の協定に違反する、通常査証費を課せられるのは居住又は仕事で赴く者に対してのみである、コンゴ(民)からルワンダに来る者に対して査証費は課していないと述べた。現在までのところ、この新たな措置はブカブ国境でのみ実施されている。(23日)

・カガメ大統領の米国訪問

22日、カガメ大統領はマサチューセッツ工科大学(MIT)訪問を含む2日間のボストン訪問を開始した。同大統領は、MIT教授陣とエネルギー、経営及び開発分野における討論会を行った。開会の辞でライフMIT大学長は、1994年のツチ族に対するジェノサイドからの20周年におけるルワンダとの連帯感を表明した。討論会は、MITにおけるルワンダ学生の増加を含むMITとルワンダの現行及び将来のパートナーシップ機会に焦点が当てられた。(23日)

【経済】

・2013年の経済成長率は4.6%

ルワンダの2013年の経済成長率は4.6%となり、前年の7.5%から下落し、過去10年間で最も低い数値となった。ガテテ財務大臣は、経済成長の減速は3つの要因(2012年の開発パートナーの援助の中断、農業生産性の低下、高い利子率)が複合的に引き起こしたものであり、経済成長が再び軌道に乗るようマクロ経済の安定の維持、財政政策を含む多数の適切な手段及び政策を講じており、2014年の成長見通しは間もなく準備できる旨述べた。先週、ルワンダ中央銀行は、経済成長を促進する民間セクターへの貸付けの安定した流入を維持するため政策金利を7%で維持することを決定した。世銀ルワンダ経済アップデート(第5版)によると、民間セクターの貸付け成長率は2012年の35%から2013年は10%まで減少している。(2日)

・中国・ルワンダ関係(EDPRS2達成を支援する資金協力合意への署名)

ガテテ財務大臣は、中国からの800万米ドルの贈与は、ルワンダ政府が「第二次経済開発貧困削減戦略(EDPRS2)」で定めた開発目標を達成するための取組を支援するものである、本件贈与は中国から毎年実施されている贈与の一部で、本年末までに支出される予定であり、1971年以来続いている両国の友好関係を象徴するものである、また、中国との協力は年を追うごとに大きく進んでおり、交通、エネルギー、保健、農業、教育など様々な分野への財政援助の総額は推計50億米ドルに達する旨述べた。沈永祥・中国大使は、EDPRS2の達成に向けた中国の支援のコミットメントを再確認し、二国間の貿易と投資の機会を一層作りながら、互いに支援を行うことは両国にとって最大の利益である旨述べた。(2日)

・世銀による支線道路整備等支援

世銀は、農場と主要な市場を結ぶ支線道路整備等を支援するため約6,000万米ドルを新たに割り当てた。同支援は、国際開発協会(IDA)の借款合意に基づき実施され、3日にガテテ財務大臣とターク当地世銀代表が署名した。同支援の内、4,500万米ドルは、ルワンダ政府の支線道路開発プロジェクトの下、カロンギ郡、ルワマガナ郡、ギサガラ郡、ニヤマシェケ郡における270kmの支線道路更新に用いられ、43.9万人が裨益する。1,590万米ドルは、ルワンダ政府の第三次地域支援プロジェクト(RSSP3)による農業生産の向上及び多様化の支援に用いられ、RSSP3では2018年までに10万1,500人が裨益する。ターク代表は、農業生産性を高め、農家及び収穫物の市場への移動を容易にすることは農家の生活を持続可能な方法で改善するのに最適である、世銀は貧困レベルの大幅な低下と地方の生計強化に焦点を当てている旨述べた。

ガテテ大臣は、本支援は、収穫後損失の減少を通じて農業生産及び食糧安全保障を強化するものであり、また、道路建設工事は雇用を創出する旨述べた。(4日)

・インフレ率(2014年3月)

3月の消費者物価指数は前月の3.45%から3.43%に減少した。ルワンダ国家統計局(NISR)は、3月に入ってから年平均インフレ率は3.9%になったと報告した。(11日)

・日本によるミレニアム・ビレッジ・プロジェクト(MVP)支援

日本政府は、ブゲセラ郡マヤンジェのMVPに120万米ドルの贈与を行う。右贈与はUNOPSを介して実施され、在ルワンダ日本国大使館のステートメントによれば、マヤンジェ地区における水・衛生、保健管理及び栄養サービスの改善に用いられ、日本のルワンダにおけるミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けた支援の一環であり、また、昨年6月に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議(TICADV)の際に表明した日本のコミットメントに従って実施された。25,000人以上のマヤンジェ地区のミレニアム・ビレッジの住人が本件贈与から裨益する予定である。(14日)

・中国支援によるキガリ市での道路整備工事着工

17日、長らく待ち望まれていたカブガーマサカ間の道路工事が開始された。6.7kmの右道路工事は、中国の1,200万米ドルの支援により実施される。工事は中国路橋会社が請け負い、14か月以内に終わられる予定である。ンザハブワニマナ交通担当大臣は、今回整備されている道路はルワンダで最良のものである、自動車用の高規格レーンの他、歩行者及び自転車用レーンが設置される予定であり、交通手段に関わらず誰でも利用できる、また、中国の右道路整備支援は、二国間の極めて良好な外交関係を示すものである旨述べた。沈永祥中国大使は、ルワンダの良いガバナンスにかんがみ同国に対する支援の継続を約束した。中国路橋会社は、ルワンダ国内において約1.1億米ドルを要する81kmのルシジーニヤマシャケ間の舗装道路及び66kmのニヤマシャケカロンギ間の舗装道路を含め、複数の道路を建設している。(19日)

・日本支援による「ルスモ国際橋及び国境手続円滑化施設整備計画」

ルスモ国際橋及びワンストップ・ボーダー・ポスト(OSBP)整備事業が完了間近となり、ルワンダとタンザニアの国境をまたぐ移動は間もなく活発になるであろう。右事業は、日本政府の220億ルワンダ・フランの支援により実施されており、11月までに完成する予定である。ンザハブワニマナ交通担当大臣は、事業は81.6%完了している、新ルスモ橋の建設はルワンダとダルエスサラーム港を結ぶ中央回廊の交通量増加という課題の解決の一助になるであろう旨述べた。本事業は、交通渋滞の解消及び貨物の移動効率の改善に貢献し、長さ80メートル、幅13.5メートルの新ルスモ国際橋の建設と管理棟などの施設の建設、また、車両制御のための管理庫、警備員宿舎、大型車用の駐車場整備を含む。新たに建設される二車線の橋は、40年前に建設された一車線の橋に替わるもので、重量制限は現在の橋が53トンであるの対して180トンとなる。新システムの導入により、両国の入国管理庁、歳入庁等の全ての政府機関は一つの施設内で旅行者による出入国の手続き等を行うこととなる。(22日)

・ベルギー・ルワンダ関係(保健分野でのセクター財政支援(SBS)の実施)

24日、ペクスティーン・ベルギー大使とガテテ財務大臣は保健医療サービスにおけるベルギー

の対ルワンダ1,800万ユーロの融資協定に署名した。同協定は、ベルギーの保健分野へのSB Sの一部で、900万ユーロずつ2014/15年度及び2015/16年度に実施される。ガテテ大臣は、本件贈与は第三次保健セクター戦略計画(2012-18)の目標達成の一助となる、ルワンダ政府は保健医療サービスの向上に向け継続的に対策を進めており、具体的には予防、治療及び機能回復のための保健医療の提供を実施しており、これは貧困削減及び国民の福祉向上に貢献している旨述べた。ペクスティーン大使は、平均寿命の顕著な向上、母子死亡率の大幅な低下は保健セクターの最も重要な成果である、ルワンダは保健分野のミレニアム開発目標の重要指標を達成している数少ない国の一つであり、これは目標達成のための堅実な政策と具体的な行動の結果である旨述べた。ベルギーの対ルワンダ援助計画(2011-14)では、総額1.6億ユーロの支援を実施予定であり、その内5,500万ユーロが保健分野への支援である。(25日)

(了)